

カトリック大磯教会だより

2025 年 8月号

2025/7/27 発行

〒255-0002 神奈川県中郡大磯町東町 2-7-1
カトリック大磯教会(宣教部広報)
Tel 0463-61-0303/Fax 0463-61-9889
URL <http://www.scn-net.ne.jp/~cathoiso/>



第 6 地区全体会に参加して ～ともに暮らす家を大切にする旅へ～

増澤 忠

少し前のことになりますが、5月18日、茅ヶ崎教会にて第6地区の全体会が開催されました。第6地区とは、横浜教区16区のうち、茅ヶ崎以西(秦野を含む)の湘南地域を指します。私は、第6地区の委員としてこの会に参加いたしました。

今回の分かち合いのテーマは、今秋に予定されている第15回横浜教区懇談会と同じく、『ラウダート・シ・ゴールズ(LSGs)に取り組むための準備～ともに暮らす家を大切にする旅へ』でした。

今年は、前教皇フランシスコが2015年に発布された回勅『ラウダート・シ』から10周年を迎える節目の年です。2018年まで大磯教会でも『ラウダート・シ』の輪読会が開催されていました。

秋の教区懇談会に加え、11月24日(月祝)には平塚教会にてメリノール会のシスター・キャサリンさんによる環境セミナーの開催も予定されており、教区内でも環境問題への取り組みが続いています。

一方、世界に目を向けると、懸念すべき動きも見受けられます。アメリカではトランプ大統領の再選が影響し、企業の環境投資が鈍化し始めています。その傾向は欧州や日本にも波及しています。

国連が2015年に提唱したSDGs(持続可能な開発目標)に先立ち、企業や投資家はESG(環境・社会・ガバナンス)を重視する姿勢を打ち出し、財務情報だけでなく環境対策等の非財務要素も評価に加える「ESG投資」が広まりました。

しかし、トランプ大統領の脱炭素化に逆行する政策に始まり、2025年に入り、日本の大手銀行・証券会社が相次いで国際的な気候変動対策枠組み(NZBA)から脱退するなど、「反ESG」の潮流が世界的に拡大してきたことも否めません。今、まさに「持続可能性(サステナビリティ)」の本質が問われる分岐点に立っています。

企業が環境問題を単なるイメージ戦略に利用している場合、その姿勢の浅さが露呈していくでしょう。一方、本業の中に環境配慮を組み込む企業は、欧州を中心に実績を上げているところがあります。たとえば、ビールで知られるハイネケン社は、2024年に使用する電力の84%を再生可能エネルギーでまかなっています。欧州の企業は、長期的視点に立った経営を行っており、その背景には、経営文化や社会的価値観、政策、そしてEUの規制が深く関わっています。

当然ながら、企業は利益を上げなければ持続できません。そのため、環境への取り組みも単なる「広報コスト」ではなく、「本業の一部」として組み込まれるべきでしょう。

一方、日本企業では、いまだに3年単位の中期経営計画が主流で、短期的な株主利益への配慮が経営判断に強く影響しています。それでも、非上場企業のサントリーや、創業家の岡田家の影響力が大きいイオンのように、確固たる環境理念をもって取り組む企業も存在します。

こうした国際的・社会的な動向をふまえつつ、教会としても「ともに暮らす家＝地球」を守るために、地域の共同体の中で具体的な行動を積み重ねていく必要性を強く感じています。

さて、全体会では、はじめに第6地区推進担当である小田原・真鶴教会のイ神父による祈りと講話が行われました。イ神父のユーモアを交えた、力強く示唆に富んだお話の主な内容は以下の通りです。



◆李神父の講話より: 主なポイント◆

・共同体の必要性

創世記にあるアダムの孤独は「良くない」とされ、神は伴侶と動物を創造された。これは、人が他者とともに生きる存在であることの象徴であり、共同体の重要性を示している。

・教会の社会的使命

教会は礼拝や祈りの場であるだけでなく、環境問題や社会的正義に応答する役割を担っている。

・「観察・識別・実行」という行動のプロセス

日々の生活の中で問題を「観察」し、聖書や教義に照らして「識別」し、具体的に「実行」していくことが求められる。

・具体的な取り組みの方向性

地球と貧しい人々への応答、エコロジカルな経済・教育・ライフスタイル、霊性の深化、地域・国際連帯とエンパワーメント(権限移譲)など。

・日本における実践の評価

公共交通の利用やごみの分別など、すでに多くの信者が環境への配慮を日常生活で実践している点は評価できる。

・未来世代への責任

次の世代に「きれいな地球＝共通の家」を手渡すために、いま、私たち一人ひとりと教会が行動を起こすことが求められている。

続いて、宮内神父の第6地区への帰任と稲葉神父の新たな着任の紹介があり、その後、典礼・福祉・宣教の三部門からの報告や会計報告が行われました。

後半は、参加者がいくつかのグループに分かれ、「霊における会話」による分かち合いが行われました。「霊における会話」は、シノドスにおいて提唱された新しい対話の方法で、これまでの分かち合いとは少し異なるアプローチです。詳細については、以前、岩城委員長が配布された『シノドスハンドブック』コピーをご覧ください。参考になります。

分かち合いのテーマは、先述した『ラウダート・シ・ゴールズ(LSGs)に取り組むための準備 …ともに暮らす家を大切にする旅』でした。

他のグループの会話はわかりませんが、私のグループで出てきた内容を紹介致します。参考になる向きもあると思いますので、箇条書きで要約を記載します。

1. 環境問題への個人の実践と気づき

ペットボトル飲料を避け、リサイクルの限界や制度的課題を指摘。/自然エネルギー電力に切替(例:ハチドリ電力)、再エネ普及を呼びかけ。/家庭で炭酸水を自作しペットボトル削減。/ガーデニングで生ゴミ(卵殻、果物の皮等)を肥料に再利用。/「買わないこと」「修理・DIY」の意識で消費を抑制。

2. 家庭生活と環境配慮の両立

7人家族の食事を長年支え、病夫のケアと自身の通院も行う。/ゴミは週4〜5袋、生ゴミ・リサイクルを徹底。/無農薬野菜を選び、孫の未来の環境を憂慮。/水道水を備蓄し災害時に備える。

3. 教会の電力切替の現状と課題

小田原教会では法人契約がうまくいかず、横浜教区全体で検討中。/切替コストや電気代上昇への懸念があるが、実際は変わらない事例も。/法人切替の可否や信頼できる電力会社の選定が課題。

4. 再生可能エネルギー会社の評価と選定

ハチドリ電力は「安く」「明細が明確」「支援活動」も評価。/比較検討の結果、「ハチドリ電力」が最も信頼できるとされた事例あり。/「怪しい会社」への不安から選定には慎重さが必要。

5. 教会共同体としての活動と広がり

個人では実践が進んでいるが、教会全体としては停滞。/「電力切替が最も効果的」との声。/情報・経験の共有を通じて取り組みの連鎖と意識改革を促す。

6. プラスチック・ごみ問題への取り組み

国府津教会などでは雑草や生ゴミの再利用を実施。/納骨堂のミサでペットボトルを配布するも、代替案模索中。/マイボトルの利用促進、缶飲料の活用も。

7. 行動の象徴と意識改革

絵本『ハチドリの一としずく』が象徴的な教材として紹介。/「小さな行動が社会を変える」ことの意義が共有された。

8. オール電化・太陽光発電・技術革新

導入済家庭あり、夜間電力を主に使用。/太陽光導入には「費用対効果」が懸念点。/新技術(薄型パネル)への期待が示された。

9. 災害時のエネルギー供給とリスク

災害時にはプロパンガスが有効との事例。/オール電化のリスクからガス併用の検討も。

10. 国の政策と市民の役割

日本は再エネに消極的との見方。/個人の選択が最大の影響力を持つとの意識が共有された。

11. 教会の模範的役割と希望

教会が自然エネルギーへ切替えることで他への波及効果を狙う。/「今が変革のチャンス」「絶望せず希望を持つ」姿勢が共有された。

12. 生ゴミ乾燥機の活用と効果

ゴミ量・臭い・手間・電気代すべてで効果あり。/補助金制度と組み合わせれば普及促進も期待できる。

長くなりましたが、これらを参考に、共に前に歩んでいきませんか？



2025年7月度 教会委員会議事録要約

1. 日時場所 2025年7月5日(土)10:00～11:30 信徒館
2. 出席者 鈴木(進行)・平田(書記)・浅石・野口・本田・増澤・松澤(俊)・岩城
3. 内容
 - (1) 典礼関係
 - ① 9月14日ミサの中で病者の塗油
 - ・普段ごミサにいらっしゃれない方に案内ハガキ郵送。聖堂の椅子配置を変更。
 - ② カズラの件
 - ・緑は二宮教会、白・紫は茅ヶ崎教会より譲り受け。着用は神父の自由とする。
 - (2) 宣教関係
 - ① ホームページ関係
 - ・サマーキャンプ告知、7月号教会報、8月～10月の司祭ローテーション、共同墓地のトイレ改修終了のお知らせをアップ済み。
 - ② サマーキャンプについて
 - ・参加促進用に過去キャンプ写真を増澤さんに集めホームページにアップ。
 - ③ 8月16(土)～17(日)上智大生合宿の調整
 - ・開催決定し、使用許可や保険案件を詰めている。
 - (3) 福祉関係
恵みの会について
 - ・正式呼称名＝「恵みの会」を確認。9月14日(日)ミサ後、本会を開催し簡単なティーパーティを行う。アトラクションとしてハンドベル演奏を行う(メンバー募集中)。
 - ・案内はがき作成、パーティ内容、参加者送迎方法等を詰める。
 - (4) 財務関係
次年度予算について
 - ・教区より次年度予算フォームが届き、各部門で予算作成を開始(信徒間外装工事費用等も含め)。
 - ・8月末:各部門まとめ➡9月中旬に委員会で調整議論➡10月に教区へ提出。
 - (5) 管理関係
 - ① 墓地関係
 - ・茅ヶ崎共同墓地のトイレ改修が7月31日に終了し8月1日から使用可能に。
 - ・今年度墓地ミサでは、簡単なティーパーティを行うので、食材・什器の手配必要。
 - ② 北側ゴミステーションの散らかり防止➡既にネットを施工済み。
 - (6) その他
 - ① 信徒館留守番電話について
 - ・留守番時の一般外部の方からの電話問い合わせがきっかけで入信至った事実を踏まえ、留守番不在時の入電も拾うべく既存の留守電を活用したいという案が出た。
 - ・対応マニュアル作成と留守番チェックリスト改訂を実施し実現する。
 - ② 大磯教会規約改定について➡次頁月例会議事録参照。
 - ③ 一粒会大会について
 - ・大会ボランティアを10名選出、締切りは8月10日。既に委員8名+2名確保。

■次回(第5回)開催は8月9日(土)10:00～11:30。

2025年7月度 月例会報告

- 日時場所 2025年7月13日(日)ミサ後 12:10～ 於:カトリック大磯教会信徒館
- 出席者(敬称略):23名 松澤 碓井夫妻 田原夫妻 神谷夫妻 松田姉妹 増澤 高橋(伸)
浅石 達崎 野口 本田 和田 堀江 平田 岩崎 永富 七條 渡辺
進行:松澤 記録:渡辺
- 委員会報告
・前頁の典礼・宣教・福祉・財務・管理の各部門報告の通り。
- その他(委員会規約改定について)
・先月の月例会で、規約を現状に沿って改定する必要があるが、2020年作成の信徒のしおり全体迄手を広げる必要はないところまで、委員会としては整理した。
・そして規約改定の案として、委員会より3点アイデアを頂いたが、それは司祭の承認と共に、何らかの形で信徒の合意を得る大事な部分が抜けていた。
・今回の話し合いでも色々広がったので、3月の月例会で指名された検討委員会のメンバー(渡辺、碓井、長谷部さん)を中心にもう一度立ち戻り、少しメンバーを増やして立ち上げ、早々にスタートして行こうということになった。

以上

2025年8月及び9月第1週 主日のミサ 奉仕者予定

日	主日 司式	聖書 朗読箇所	聖歌				奉仕者				侍者	ミサ準備	お花当番
			入祭	答唱	奉納	派遣	オルガン	先唱	朗読 *朗唱	奉納			
3日	テハン神父 11:00～	I コレヘト 1・2: 2・21-23							松田 真	松田			
		II コロサイ 3・1-5, 9-11	典 5	典 35	典 177	典 388	鈴木 郁	岩城	松澤 ま	和田	阿部 公	阿部 公	清水
	年間第18主日	福 ルカ 12・13-21		①③④					* 楠元	金子			
14:00～ 子どもとささげるミサ(サマーキャンプ) 李師・韓師													
10日	稲葉神父	I 知恵 18・6-9							野口	勝部			
		II ヘブライ 11・1-2, 8-19	典 32	典 46	典 144	典 77	梶山 真	達崎 伸	松澤 ま	藤林	松田 富	浅石	野口
	年間第19主日	福 ルカ 12・32-48		③④⑤					* 長谷部	高橋 佳			
17日	菅原裕二神父 (イエズス会)	I エレミヤ 38・4-6, 8-10							中村	赤堀			
		II ヘブライ 12・1-4	典 102	典 54	典 175	典 64	碓井 玲	岩城	和田	松田	古津 斎藤	藤林	高橋
	年間第20主日	福 ルカ 12・49-53		①④					* 龍造寺	平田			
24日	韓神父	I イザヤ 66・18-21							堀江	中村			
		II ヘブライ 12・5-7, 11-14	典 138	典 132	典 33	典 157	松田 厚	浅石 奈	本田	竹本	松田 真	野口	浦山
	年間第21主日	福 ルカ 13・22-30		①②					* 藤林	七條			
31日	李神父	I シラ 3・17-18, 20, 28-29							松澤 俊	岩崎			
		II ヘブライ 12・18-19, 22	典 29	典 34	典 51	典 19	梶山 真	藤林	平田	勝部	松田 富	達崎	龍造寺
	年間第22主日	福 ルカ 14-1, 7-14		①②④					* 岩城	浦山			
7日	宮内神父	I 知恵 9・13-18							田原	瀧谷			
		II フィレモン 9b-10, 12-14	典 100	典 52	典 390	典 144	鈴木 郁	本田	浅石	浦山	市原	達崎	野口
	年間第23主日	福 ルカ 14・25-33		②③④					* 長谷部	阿部			

○ 2025年8月の掃除当番

第1週(～2日)	第2週(～9日)	第3週(～16日)	第4週(～23日)	第5週(～30日)
平塚・秦野 A	平塚・秦野 B	東・高・大 A	東・高・大 B	東小磯・西小磯

お知らせ

1. 行事予定

- ・8月2日(土)～3日(日) サマーキャンプ 2025 於:大磯教会
- ・8月9日(土) 10:00～ 8月度教会委員会
- ・8月17日(日) ミサ後～ 8月度月例会
- ・8月16日(土)～17日(日) 上智大学神学部生の黙想会(菅原神父帯同) 於:大磯教会
- ・9月7日(日) 14時～ 第6地区福祉部会 於:大磯教会
- ・9月14日(日) ミサにおいて病者の塗油、ミサ後恵みの会

2. 聖歌隊の予定

- ・合同練習 日曜日 14時～ 8/24、9/28、10/26、11/23 カトリック大磯教会
- ・ソプラノ・アルト 土曜日 14時～ 9/20、10/11、11/15 大磯キリスト教会
- ・テナー・ベース 土曜日 14時～ 9/13、10/18、11/8 日本基督教団大磯教会
- ・ハンドベル練習 土曜日 13時～ 10/11、11/15 大磯キリスト教会
- ・12月14日(日) 14時 全体練習 16時 公開リハーサル カトリック大磯教会
- ・12月21日(日) 14時～大磯クリスマスキャロリング本番 ステパノ学園

3. その他

- ・先日撮影されたCMがYOUTUBEで配信されています。
→https://www.otsuka.co.jp/adv/poc/tvcm202505_02.html
大塚製薬ポカリスエットのCMです。是非ご覧になってくださいませ。

編集後記

夏はとっくに来たと思っていたのに、2、3日前から漸く蝉たちの鳴き声が聞こえ始めて、彼らは単純な気温変化よりもあくまで暦に忠実に生きているのだなと、感じ入りました。幼虫から成虫まで7年もかけて姿を変え成長して来るのだから、そのプロセスをきっちり消化するのには所定の時間が必要なようですね。

今年の夏も猛暑です。昨年以上かも知れません。北海道、道東の夏は昔から暑いですが、昨日(7/24)、帯広駅前の気温計(-35℃～40℃の75℃のレンジ!)は上限を振り切ったようです。今日の昼休みに、興味本位で都内日本橋の歩道の温度を実際に測ってみたら何と46℃ありました。暑すぎて歩けません。地面により近いお子さんやワンちゃんにとっては、もっと酷い灼熱地獄でしょう。お年寄りや小さな子供の健康が本当に心配になります。ご自愛とともに、お互いをいたわり合いながら日々お過ごしいただくようにお祈りするしかありません。

どうか皆様、ご自身のお身体と心に積極的に滋養を与えてあげて、この酷暑を乗り切るよう一緒に助け合って頑張ってくださいませ！